

平成23年6月8日

平成22年度決算概況について

横浜信用金庫（理事長 齋藤 寿臣）では、平成23年6月23日（木）の通常総代会において平成22年度の決算について報告します。

つきましては、「平成22年度決算資料」を添えてお知らせします。

1. 本決算のポイント

(1) 60期連続の黒字決算

(2) 経常利益前年度比46.45%、当期純利益前年度比15.57%の増益

2. 業容について

預金の期中平均残高（譲渡性預金を含む）は、前年度比0.67%増加し1兆4,423億円、期末残高は同1.60%増加し1兆4,624億円となりました。

貸出金の期中平均残高は、前年度比2.22%減少し8,487億円となりましたが、期末残高は同0.51%増加し8,633億円となりました。

3. 損益について

経常収益は、前年度比9億80百万円減少し300億86百万円となりました。貸出金の残高減少や利回り低下により貸出金利息が減少したことが主な要因です。

経常費用は、前年度比23億79百万円減少し256億75百万円となりました。預金利回りの低下による預金利息の減少と貸倒引当金繰入額等の不良債権処理費用の減少が主な要因です。

この結果、経常利益は、前年度比13億98百万円増加し44億10百万円となりました。

また、本業の収益力を表す業務純益（一般貸倒引当金繰入後）は、前年度比6億28百万円増加し、67億85百万円となりました。

当期純利益は、前年度比2億83百万円増加し21億4百万円となりました。

これにより、昭和26年に信用金庫に組織変更して以来、60期連続の黒字決算となりました。

〈不良債権処理費用〉

	21年度	22年度	増減額
貸出金償却	185百万円	0百万円	△185百万円
個別貸倒引当金繰入額	1,763	1,242	△520
債権売却費用	461	126	△334
合 計	2,410	1,369	△1,040

(参 考)

一般貸倒引当金繰入額	330	△360	△691
------------	-----	------	------

(注) 貸倒引当金繰入額は、個別貸倒引当金繰入額と一般貸倒引当金繰入額の合計額となります。

4. 諸比率について

預金貸出金利鞘は、前年度比ほぼ横ばいの0.78%となりました。貸出金利回りは前年度比0.06ポイント低下し2.30%となりましたが、預金利回りが同0.07ポイント低下し0.13%となった結果、経費を含めた預金原価率は前年度比0.06ポイント低下し1.51%となりました。

総資金利鞘は、前年度比ほぼ横ばいの0.21%となりました。資金運用利回りは前年度比0.07ポイント低下し1.74%となりましたが、資金調達原価率も1.52%と同0.07ポイント低下しました。

自己資本比率は、前年度比0.01ポイント上昇し11.70%となりました。国内基準(4%)はもとより国際基準(8%)も上回る高い水準を維持しています。

5. 不良債権について

不良債権残高は、取引先の業況悪化に伴い、前年度末に比べ増加しました。不良債権比率は、信用金庫法基準、金融再生法基準ともに前年度6.12%から6.78%に上昇しました
なお、不良債権に対する担保・貸倒引当金等による保全率は、90%を超えています。

6. 平成23年度計画について

平成23年度の利益計画は次のとおりです。

(1) 業務純益	63億74百万円	(前年度比	△4億11百万円)
(2) 経常利益	30億40百万円	("	△13億70百万円)
(3) 当期純利益	19億62百万円	("	△1億42百万円)

以上

たしかな明日のお手伝い



横浜信用金庫

神奈川・東京に60店舗